

【単元シート】

単元	自然環境と生活
----	---------

配当時間 (13) 時間

生徒の実態	次	気候の成り立ち	世界の気候区分	日本の自然の特徴と人々の生活
<p>○中学校の理科や地理の授業で気団や日本の気候について学習している程度である。</p> <p>○日常の気象報道等には学校生活に関わる程度で理解している。</p> <p>○学級全体の授業の理解度は高く、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができ、学習意欲も全体的に高い生徒が多い。</p>	目	<p>○気候は気温・降水量・風などの要素から構成されていることを理解させる。</p> <p>○3要素の分布の特徴と要因を理解させる。</p>	<p>○気候記号の意味を理解し気候区分ができるようにする。</p> <p>○各気候区の特徴と人間活動との関係を理解させる。</p> <p>○植生と土壌の特性と成因を理解させる。</p>	<p>○日本の地形や気候の特徴を理解させる。</p> <p>○自然災害の特徴と原因を理解させる。</p> <p>○開発のあり方について考えさせる。</p>
	学	<p>○気候要素</p> <p>○気候因子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気温 ・降水量 ・風 <p>○気候の変化と地球温暖化</p> <p>○現代社会と気候</p>	<p>○気候分類と気候記号</p> <p>○熱帯気候 (A)</p> <p>○乾燥気候 (B)</p> <p>○温帯気候 (C)</p> <p>○亜寒帯気候 (D)</p> <p>○寒帯気候 (E)</p> <p>○植生と土壌</p>	<p>○日本列島の地体構造や地形の特徴</p> <p>○日本の季節の変化とその要因</p> <p>○日本の災害とその特徴</p> <p>○開発にともなう災害</p>
	内	容	容	容
	手	だ	だ	だ
	て	て	て	て
	((((
	全	全	全	全
	体	体	体	体
	・	・	・	・
	A	A	A	A
	層	層	層	層
	・	・	・	・
	C	C	C	C
	層	層	層	層
))))

生徒のゴール像
<p>○用語の意味が分かり、説明できる。</p> <p>○気候分布の規則性、各気候区の特徴、人間活動との関係等を理解できる。</p> <p>○気候判定ができる。</p> <p>○興味ある地域や国々について旅行案内などを活用して情報収集できる。</p> <p>○災害と自然環境との関係と防災対策が理解できる。</p>

[手だて・工夫の有効性]
<p>①発問のヒントの工夫</p> <p style="text-align: center;">1 2 ③ 4</p> <p style="text-align: center;">└──────────┘</p>

<p>②板書の工夫</p> <p style="text-align: center;">1 2 3 ④</p> <p style="text-align: center;">└──────────┘</p>

<p>③授業プリントの工夫</p> <p style="text-align: center;">1 2 3 ④</p> <p style="text-align: center;">└──────────┘</p>


<p>④説明が分かりやすい</p> <p style="text-align: center;">1 2 3 ④</p> <p style="text-align: center;">└──────────┘</p>

<p>⑤内容に興味をもてた</p> <p style="text-align: center;">1 2 ③ 4</p> <p style="text-align: center;">└──────────┘</p>

次の単元・次年度へ向けての留意点
<p>○次の単元では、農業の成立や農業地域区分が、気候環境と関連が深いことに留意しながら、考察させる。</p> <p>○発問は、A層・C層に配慮した内容になるように留意する。</p> <p>○次年度に向けても、要点を図示するなどして明確化を図ろうと考える。</p>

(「手だて」は指導上の留意点です。)

学習の展開 (内容と活動)	授業の手だて・工夫 (指導上の留意点)			授業の振り返り	手だての有効性
	全体	A層	C層		
<p>授業目標 ○日本列島の位置位置と地形の特徴を理解する。 ○災害と地形との関係について理解する。</p> <p>導入 ○日本で起こる災害を列挙させ、災害の要因について疑問を抱かせる。 ・日本で起こる災害にはどんなものがあるか。 ・日本には、なぜ災害が多いか。</p> <p>(学習内容) ↓ (活動)</p> <p>日本列島の位置 ①位置・距離・領域 ②環太平洋造山帯</p> <p>↓</p> <p>地図帳で確認</p> <p>↓</p> <p>日本列島の地体構造 ①フォッサマグナ ②糸魚川・静岡構造線 ③中央構造線</p> <p>↓</p> <p>教科書等で確認</p> <p>↓</p> <p>まとめ(1) 日本列島の3区分</p> <p>↓</p> <p>まとめ(2) 日本に災害が多い理由</p> <p>↓</p> <p>ヒントを基に再考・発表</p> <p>↓</p> <p>教師の補足説明を聞き、学習プリントに記入する。</p>	<p>○自然災害について、思いつくままに列挙させ、地形(地体構造を含む)・気候に起因するものに大別できることを示唆する。</p> <p>○掛け図・地球儀・学習プリントを準備しておき、必ず地図上で空間配置に注意させる。</p> <p>○マーカー等を使って、色分けさせる。</p> <p>○掛け図・地球儀・学習プリントを準備しておき、必ず地図上で空間配置に注意させる。</p> <p>○マーカー等を使って、色分けさせる。</p> <p>○自分の考えをまとめる時間を確保する。</p> <p>○キーワードを示し、簡潔にまとめさせる。</p>	<p>○作業が早い生徒には、資料集の関連ページに目を通させる。</p> <p>○作業が早い生徒には、資料集の関連ページに目を通させる。</p>	<p>○作業が遅い生徒に対して、どのページを調べるか指示する。</p> <p>○ポイント作業で、要点を確認させる。</p> <p>○作業が遅い生徒に対して、どのページを調べるか指示する。</p> <p>○ポイント作業で、要点を確認させる。</p> <p>○うまく発表できない場合は、具体例を示す。(場合によっては、教科書の該当箇所を示す。)</p>	<p>生徒の学習到達度、気づきなどを記入</p> <p>○学習内容と活動を明確に分けることで、授業にメリハリがついて雰囲気を活発化することができた。</p> <p>○学習プリントを活用することで、作業等の効果を高めることができてよかった。</p> <p>○板書を工夫(色チョーク使用や作図等)することで、内容的・視覚的に楽しみながら参加できてよかった。</p> <p>○A層に対する手だてとして、資料集を活用することで、学習内容の拡大と考察の深化に繋がり効果的であった。</p> <p>○C層に対する手だてとしてポイント作業を行うことで、基本的内容の理解を促すことができたが、もっと丁寧な指導が必要である。</p> <p>○学習プリントの整理と発表の活動は、学習内容の理解を深め、定着を促すために効果的であった。また、自分の考えをまとめる時間の確保も同様に有効であった。</p>	<p>① 発問のヒントの工夫 1 2 ③ 4</p> <p>② 板書展開の工夫 1 2 3 ④</p> <p>③ 授業プリントの工夫 1 2 3 ④</p> <p>④説明が分かりやすい 1 2 3 ④</p> <p>⑤内容に興味をもてた 1 2 ③ 4</p> <p>⑥ 1 2 3 4</p> <p>[参考] 1 効果がなかった 2 あまり効果がなかった 3 少し効果があった ④ とても効果があった</p> <p>↓</p> <p>次の授業の改善など</p> <p>○用語の意味を正確に把握できていないことがあるので、意味を確認したほうがよい。</p> <p>○発問は、A層・C層に配慮した内容になるように留意する。</p> <p>○発問に対する生徒の答えを焦らずに待つ。</p> <p>○次年度も、図示するなど要点の明確化を図ろうと考える。</p>

学習の展開（内容と活動）	授業の手だて・工夫（指導上の留意点）			授業の振り返り	手だての有効性
	全体	A層	C層		
<p>授業目標 ○日本の気候の特徴を理解する。</p> <p>導入 ○日本の気候の特徴（明瞭な季節変化等）及びその要因について疑問を抱かせる。 ・季節の特徴にどのような違いがあるか。 ・なぜ、そのような違いが生じるのか。</p> <p>(学習内容) (活動)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>気候の季節的变化 ①温暖湿潤気候 ②亜寒帯湿潤気候 ③冬 ④夏 ⑤春と秋</p> <p>↓</p> <p>地図帳で確認</p> <p>↓</p> <p>特異な気候現象 ①初夏 ②秋 ③台風</p> <p>↓</p> <p>教科書等で確認</p> <p>↓</p> <p>まとめ ①日本の気候の季節的变化とその要因 ②日本の特異な気候現象</p> <p>↓</p> <p>ヒントを基に再考・発表</p> <p>↓</p> <p>教師の説明を聞き、学習プリントに記入する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>・地図帳等で調べ、調べたことを学習プリントに記入する。 ・調べて分かったこと発表する。</p> <p>↓</p> <p>・教科書等で調べ、学習プリントに記入する。 ・調べて分かったこと発表する。</p> <p>↓</p> <p>教師の説明を基に、学習プリントで整理する。</p> <p>↓</p> <p>日本の特異な気候現象や分かったことを発表する。</p> </div> </div> <p>評価</p> <p>誤答 ← ↓ 正答</p> <p>評価</p> <p>誤答 ← ↓ 正答</p> <p>評価</p> <p>誤答 ← ↓ 正答</p>	<p>○季節の変化について、思いつくままに列挙させ、季節の変化と気団との間に関係があることを示唆する。</p> <p>○掛け図・地球儀・学習プリントを準備しておき、必ず地図上で空間配置に注意させる。</p> <p>○マーカ等を使って、色分けさせる。</p> <p>○掛け図・学習プリントを準備しておき、必ず地図上で空間配置に注意させる。</p> <p>○マーカ等を使って、色分けさせる。</p> <p>○自分の考えをまとめる時間を確保する。</p> <p>○キーワードを示し、簡潔にまとめさせる。</p>	<p>○作業が早い生徒には、資料集の関連ページに目を通させる。</p> <p>○作業が早い生徒には、資料集の関連ページに目を通させる。</p>	<p>○作業が遅い生徒に対して、どのページを調べるか指示する。</p> <p>○ポイント作業で、要点を確認させる。</p> <p>○作業が遅い生徒に対して、どのページを調べるか指示する</p> <p>○ポイント作業で、要点を確認させる。</p> <p>○うまく発表できない場合は、具体例を示す。（場合によっては、教科書の該当箇所を示す。）</p>	<p>生徒の学習到達度、気づきなどを記入</p> <p>○生徒が季節感に対して、少し鈍くなってきているように感じられた。</p> <p>○季節の特徴的景観（季節感）を象徴する映像を提示することで、季節のイメージを視覚的に確認できた。また、季節のイメージを共有できたことが、季節感を気団との関係で説明することを円滑にし、生徒の理解を促すために効果的であった。</p> <p>○板書の工夫（色チョーク使用や作図作業等）と発表の組合せが、学習内容の理解と定着に効果的であった。</p> <p>○A層に対する手だてとして、資料集を活用することで、学習内容の拡大と考察の深化に繋がり効果的であった。</p> <p>○C層に対しては、ポイント作業が、要点確認と基本的内容の理解に繋がったが、同時に細やかな配慮も求められた。</p> <p>○考えを整理する時間を確保することは、学習内容の理解を深め、定着を促す上で必要かつ効果的で、とてもよかった。</p>	<p>① 発問のヒントの工夫 1 2 ③ 4</p> <p>② 板書の工夫 1 2 ③ 4</p> <p>③ 授業プリントの工夫 1 2 3 ④</p> <p>④ 説明が分かりやすい 1 2 3 ④</p> <p>⑤ 内容に興味をもてた 1 2 ③ 4</p> <p>⑥ 1 2 3 4</p> <p>[参考] 1 効果がなかった 2 あまり効果がなかった 3 少し効果があった ④ とても効果があった</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>次の授業の改善など</p> <p>○日本の気候の全体像を、もっと四季の変化という視点に軸をおいて授業展開していきたい。</p> <p>○発問は、A層・C層に配慮した内容になるように留意する。</p> <p>○短時間でも、考えをまとめる時間を確保することが効果的で、これからも取り入れる。</p> <p>○次年度は、中学校教材を発展的に利用することも視野に入れようと考えている。</p>